

この人と吉野川



「神山町はアドプト日本発祥の地。そんなところにも縁を感じます」

吉野川交流推進会議 会長

ふくなが よしかず
福永 義和さん

「川には個性がある。交流をはかることで相互の川への思い、流域への想いを深めていきたい」

住友俊一さん・美馬光夫さんに続いて、吉野川交流推進会議三代目会長に就任されたのは、阿波銀リース株式会社顧問を務める福永義和さん。「お二人ともご指導いただいた大先輩。今まで築いてこられた活動を汚すことなく引き続き推進していきたい」と引き締まった表情で話します。

平成10年の会議創立時から正会員として参加。また、アドプト・プログラム吉野川でも、行員をまとめ、率先して清掃活動を行ってきました。理知的で、ときにユーモアを交えたエネルギーが話し手であり、「就任後すぐ、挨拶回りを兼ねて正会員を勧誘してきました」という軽やかなフットワークは、会議創立15周年を迎え、さらなる発展を目指すこの時期にまさにうってつけのリーダーです。

福永さんは吉野川の支流・鮎喰川（あひく）の最上流に位置する神山町上分の出身です。「日中、川で遊び、アユやウナギ、カニを追いかけていました。海を見たのは小学校の修学旅行です」。泳ぐと言えば川、川と言えば鮎喰川。そんな福永さんですから、吉野川を認識したのもずいぶん遅く、昭和39年（1964）に阿波銀行に入行してからです。



阿波銀行のアドプト区間は吉野川大橋から西へ600mの南岸。「うちの土手」と名前をつけて清掃活動を行っています



10月に開催された筑後川フェスティバルのオープニングにて吉野川をPRする福永さん

と聞き、吉野川の偉大さを強く意識したそうです。また、「北島支店長時代、吉野川の堤防から見る夕陽の大きさと輝きには、見るたびに感激したものです」と、目を細めます。

兄弟縁組調印式という大仕事を終えて、「美馬前会長のご尽力、中村副会長（新町川を守る会）の長年の交流の積み重ねや、縁組のきっかけを創った吉野川渡し研究会の日下事務局長あつてのこと。心より感謝申し上げます。——それにしても、三大暴れ川の縁組が台風直撃時に行われたことは意義深い感じがしますね（笑）」

県内外多くの地に赴任した福永さんが実感するのは、川にはそれぞれ個性があり、流域の自然や風土、経済、文化も違うということ。交流して互いの理解、川や流域への想いを深めたいと語ります。さらに、産業や文化の推進、災害支援協力にまで発展させ、互いに高め合っていくことが大事とも。

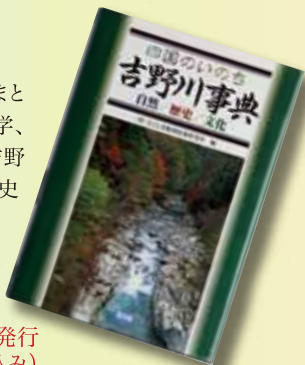
ところで、阿波銀行の阿波おどり連「あわぎん連」では、なんと頭取を筆頭に役員が先頭を切って踊るべしという伝統があるとか。福永さんの踊りの腕も、今後の河川交流に一役買いそうです。

Yoshinogawa Book Review

『吉野川事典』

吉野川と人々の物語や川への想いをまとめた一冊。郷土史研究家や生物学、工学、文学など幅広い分野の執筆陣により、吉野川の沿革、自然、動植物、治水・利水の歴史と知恵、橋の博物館、信仰・スポーツなど、約400の切り口から吉野川を語っており、読みごたえ充分。（財）くしま地域政策研究所編集。

（株）農山漁村文化協会 発行
3,200円（税込み）



『吉野川渡し周辺の石造物ガイドブック』

吉野川、旧吉野川、今切川流域に残る地蔵や常夜灯などの石造物を紹介するガイドブック。「吉野川渡し研究会」が編集・発行。138点について場所、建立年、材質や大きさなどのデータとともに、会員による説明と地図が掲載され、本を片手に訪ねることができる川の「守り神」として地域の拠り所にもなった石造物を通じ、人と川の繋がりを感ずることができる。問合せは同会 ☎088-662-3773へ。

吉野川渡し研究会 編・発行 1,000円（税込み）

